Rain of Worldly desires :*******************

『虞美人草』の雨

Junko Higasa

『虞美人草』第五章受講中に、K 先生から「雨」という新たなキーワードを受け取った。そこで藤尾の感情が激する場面で登場する雨と風について考えてみた。

まず第六章で『一人の一生には百の世界がある』という言葉が目につく。人の生涯の百=もしや百八つの煩悩かと考える。さらに仏教では「毒蛇が起こす雨と風は煩悩の象徴」ということなので、藤尾の戦闘的煩悩場面と合致し、それも後押しする。

それでは「煩悩」とは何か?それは心身を悩ませ智慧を妨げるもので、我執から生じる。要するに藤尾のような我儘から生じるのである。そして煩悩の百八つの数の中には、現在ばかりでなく過去と未来の因果も含まれる。それでは仏教の因果(西洋哲学では因果性)とは何か?以下に簡略に示す。

釈迦

善因善果(善行が良い結果を産む) 悪因悪果(悪行が悪い結果を産む) 善因楽果(善行が自分に望ましい結果を招く) 悪因苦果(悪行が自分に望ましくない結果を招く)

アリストテレス

質 因(素材が原因となる) 形相因(原型が原因となる) 作用因(始動が原因となる) 目的因(結果も原因の一つである)

東洋でも西洋でも全ての原因は「第一原因」にあり、それは最終的に東洋哲学では「宇宙」へ、西洋哲学では「神」へ行きつく。

作中では藤尾の心身の中に在る永遠の実態(根本原因)の高ぶり具合、即ち我執のレヴ ェルによって煩悩を象徴する雨の度合いも変化する。第五章で『空の中から降るとは 受け取れぬ。地の上に落つるとはなおさら思えぬ。命の糸は僅かに尺余りである』と いう藤尾の心に生じて地に収まりきらぬ愛の因果である我執の細い雨は、本降りにな りそうな予感がする。糸子はその雨が激しくなる前に帰ろうと思う。やがて甲野家に、 宗近家に、井上家に煩いの雨が降り続き、いよいよ約束を反故にした小野さんへ向か って風が毒蛇の激しい雨を運ぶ。藤尾の我執が頂点に達したとき、彼女は床の上に倒 れる。そして最終、第十九章『凝る雲の底を抜いて、小一日空を傾けた雨は、大地の 髄に浸み込むまで降って歌んだ』この「歇む」という言葉には「尽きる」と言う意味 がある。藤尾の煩悩は大地の髄に浸み込むまで止まることを知らず、だんだん膨らん で風の中に人々を巻き込んで雨で叩き、ついにその死によって尽き果てた。即ち死に よって全ての煩悩は消滅した。それゆえ藤尾の亡骸は美しい。そして毒蛇といえば、 エジプトの女王: クレオパトラは自らを毒蛇に噛ませて死んだ。クレオパトラに例え られたエゴイズムの女王:藤尾は毒蛇である自らの毒のために死んだ。クレオパトラ は数か国語を繰る才媛であり、藤尾も英語を学んでいるという共通性があるが、ここ にも藤尾をクレオパトラに例えた所以があるような気がした。国を守るため自分の魅 力を武器に使ったクレオパトラと、家督相続のために自分の魅力を武器に使った藤尾。 それは男社会の中で、権力以外で砦を守ることを余儀なくされた女性の悲劇でもある。 いつの世も砦を巡る欲望の戦いは、遠い過去の細い雨から始まっている。(2013.7.7)